

群 教 セ	G10 - 01
	平 14.205集

# 授業を変える！ 教師主導から子ども主体の道徳学習へ

－ 子どもと共に創る“My道徳”の時間

を取り入れた「ステージ道徳」の提案 －

学校経営課 長期研修員 櫻井 雅明

## 《研究の概要》

本研究は、教師主導の道徳授業を子ども主体の道徳学習に変えようと試みた実践的研究である。一年間を8つの学習期（学びのステージ）に分け、それぞれのステージに関連した内容項目を連続して指導するステージ道徳を構想し、家庭での心の教育の担い手である保護者と連携を図りながら進めた。第5ステージに、子どもの思いや願い、問いを基に子ども自身が教師と共に創る My 道徳の時間を位置づけ、子どもの一層の主体的な学びに迫ろうとした。

【 キーワード：道徳 中学校 主体的学習 ステージ 学業連携 】

## はじめに

### 1 子どもの実態、思い・願いから

昨年度までの自分の授業実践から、「学習態度が受け身である」「他人事で考えていて本音がなかなか出てこない」「自分の考えをもてない（語れない、書けない）」などの子どもの姿が思い出される。それでも、一年間の授業実践を続けることで、子どもはその都度一生懸命考え、自分のあり方を振り返り、自分の意見や考えが書けるようになるなどの変容がみられた。

しかしそれは、子どもが主体的に頑張っているというより、教師が頑張らせているという印象が強かった。やらされている道徳ではなく、子どもが主体の道徳の時間でない限り、子どもに十分な満足感は得られない。

「道徳の時間に関するアンケート（資料1・2）」に見る子どもの意識は、道徳の時間にプラスイメージをもつ子とマイナスイメージをもつ子がおよそ半々だった。しかし、多くの子がアンケートの中で、楽しく退屈しない面白い授業を受けたい（資料3）と書いている。

以上のことから、子どもは、楽しく、退屈しない、わくわくするような授業をしたがっていることがわかる。

### 資料1 道徳の時間のプラスのイメージ

- ・他の教科と違って決まった答えがないからおもしろい。楽しい。
- ・人間としての勉強、「心」に関することを学ぶ時間。
- ・自分の意見を友だちと比べることが出来、新しい気づきや発見がある時間
- ・将来役に立ちそう。ためになる。

### 資料2 道徳の時間のマイナスのイメージ

- ・たいくつで、つまらない。面白くない。眠くなる。
- ・何をするのか、何をしたらいいのかわからない。
- ・堅苦しく、窮屈な時間
- ・物語のような読み物資料が多く、意見は挙手して言い、最後に先生がまとめをするというワンパターンな授業。

### 資料3 こんな道徳の授業をしたい

- ・楽しく、たいくつしない、面白く、ワクワクするような授業
- ・みんなの考えが聞け、友だちのことを知ることができる授業
- ・ただ、いすに座って話を聞いたり、書いたりだけではない授業
- ・ディベートによる話し合いや今話題になっていることについて考える授業
- ・分かりやすい簡単な資料を使った授業

## 2 教師の願い・思いから

置籍校及び総合教育センター研修の講座に参加した教師は、アンケートやその研修の中で、「**道徳の時間の悩みや難しさ**」として、資料4のように答えている。また、「**道徳の時間に見たい子どもの姿**」として、資料5のように答えている。自分自身も「**道徳は資料が命**」と教師

### 資料4 アンケート及び研修にみる

#### 「道徳の時間の悩み・難しさ」

読み物資料を使ったマンネリ化した授業の流れ  
適切な資料が見つからない  
建前ばかりで本音が引き出せない  
他人事で自分自身のこととして考えさせられない  
実際の生活場面に結びついていかない  
意欲が喚起できない  
生徒の考えを引き出したり、じっくり考えさせる発問が難しい  
親の意識が薄い、価値観の相違がみられる

### 資料5 アンケートにみる「道徳の時間に見たい子どもの姿」

他人事ではなく自分の事として本気で考える姿  
本音を出し合う姿  
生き生きと発言したり、活動している姿  
人との違いに気づき、自己理解を深めたり、自己の世界を広げるなど、子どもが変わっていく姿  
今後の自分の生活に生かしている姿

の視点から資料開発、資料集めに奔走し、資料勝負の「なぜ」型発問の授業を行ってきた。それは、子どもが一生懸命考え、頑張っていた授業ではあったが、頑張らされていたとも言える授業であり、子どもが自ら頑張る子ども主役の授業にはなりえていなかった。

これらのことから、**子どもが主役の子どもが活躍する子ども主体の授業をしたい**というのが私の願いである。

また、連携に関する調査(前掲)では、「教師間では、生徒指導や教科指導、総合学習に関して、情報交換などの協力、連携はできているが、道徳、学活、学級経営などに関する協力、連携は不十分」さらに、家庭・地域との連携では、「生徒指導、生徒理解や総合的な学習の時間における地域人材の活用などの連携はできている」という傾向があった。連携の意識は高いが、連携は限定されており、

教師間の連携、家庭・地域との連携が課題としてあげられる。

## 3 群馬県の行政による調査から

「今後の群馬県における学校道徳教育の充実のために(報告)(平成12年2月1日 群馬県中学校道徳教育振興会議)」によると、学校の課題として、**魅力ある教材開発** 「**道徳**」の**時間の工夫** **家庭・地域との連携** という点があげられている。また、保護者対象のアンケートからも、**地域の考えを学校に伝え、連携していない**という課題点が明らかになっている。

以上のことから、教師間、保護者との開かれた関係作り、子どもが他人事でなく本気で考え、楽しさや満足感を覚えるような道徳の時間にすることが必要だと考えた。そこで、本研究では保護者との関係を開くための手だてを講じながら、子どもが自ら考え、子ども自身が自分の言葉で道徳的価値を語り、生活の中に具体的に生かしていくことにつながっていく主体的な道徳学習のあり方を実践を通して明らかにしようと考えた。

### 研究のねらい

道徳教育を推進するために、保護者との連携を図りながら、1年間を8期に分けた学習期(学びのステージ)に関連した「ステージ道徳」を展開する。さらにその中で、道徳学習の発展的な学習スタイルとして、子どもの思いや願い、問いを基に、子どもと共に創る「My道徳」の時間を構想することにより、教師主導の授業から脱却し、子どもが主役の、子どもが活躍する**子ども主体の道徳の時間**になることを実践を通して明らかにする。

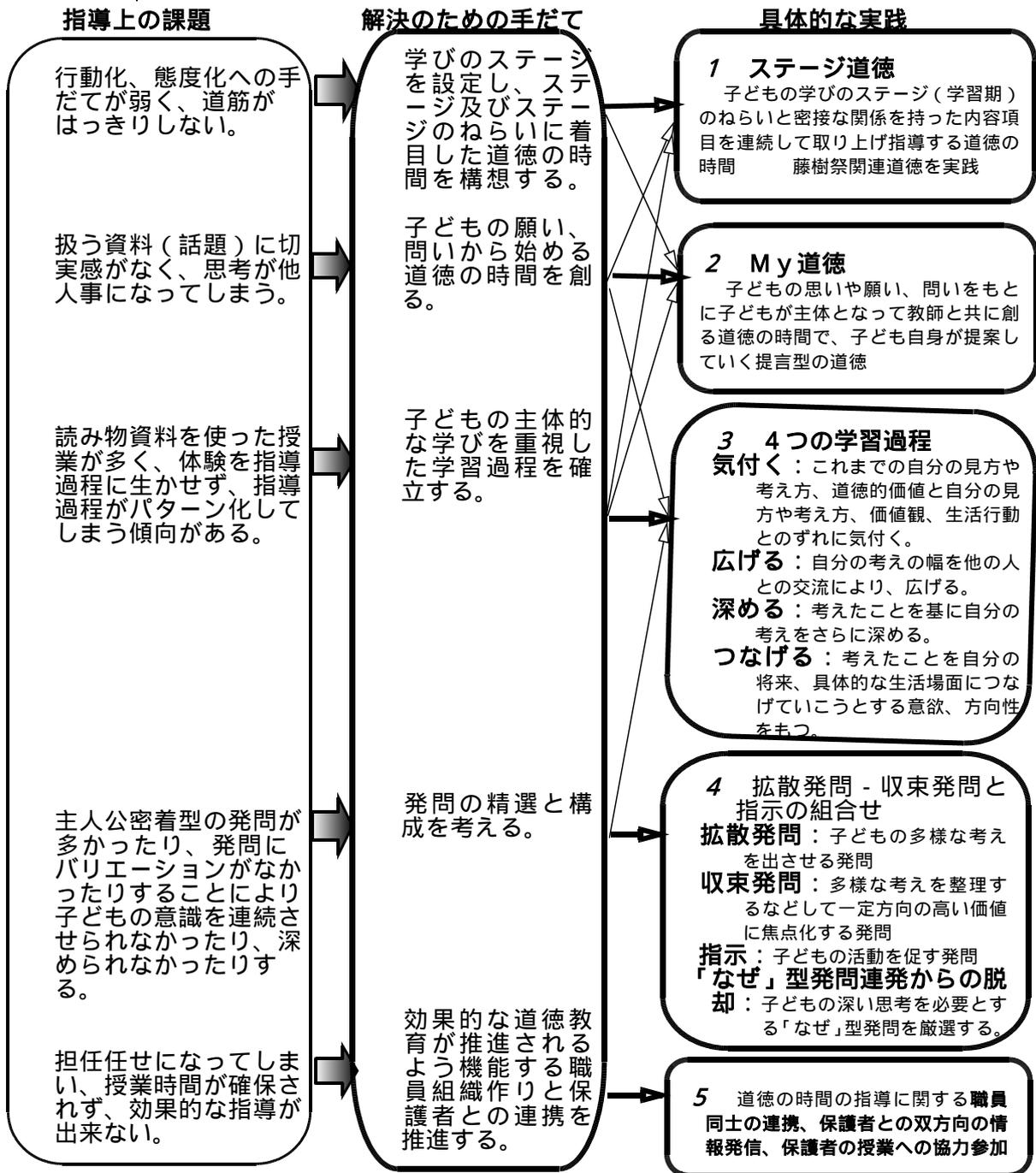
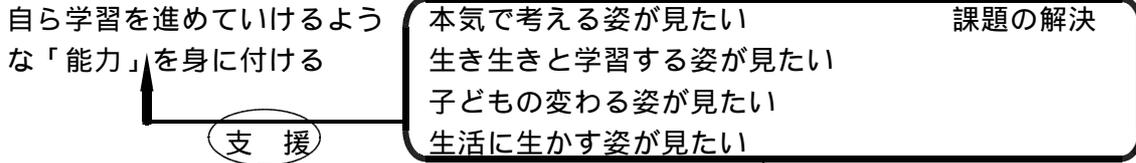
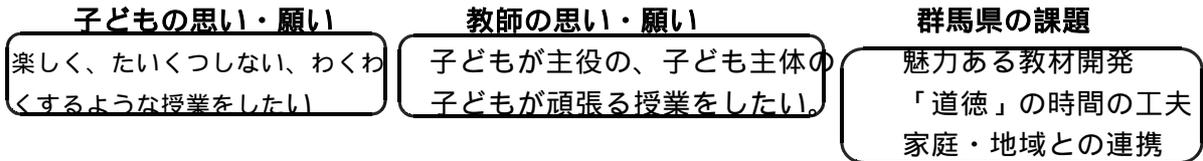


図1 研究の全体構想図

## 研究の内容

### 1 子ども主体の道徳学習にするための視点

子ども主体の道徳学習を阻害し、教師主導の道徳授業になりがちな要因として、前述の行政における調査及び県内の先生方へのアンケートからとらえた実態から、次の5点を指導上の課題としてとらえた。

行動化、態度化への手だてが弱く、行動化するまで子どもの意識が継続しない。  
扱う資料（話題）に切実感がなく、思考が他人事になってしまう。  
読み物資料に頼った授業が多く、体験を指導過程に生かせず、指導過程がパターン化してしまう傾向がある。  
主人公密着型の発問が多かったり、発問にバリエーションがなかったりすることにより、子どもの意識を連続させられなかったり、深められなかったりする。  
担任任せになってしまい、授業時間が確保されず、効果的な指導が出来ない。

以上の問題点を解決するための手だてとして、次の5点を考えた。

学びのステージを設定し、ステージ及びステージのねらいに着目した道徳の時間を構想する。  
子どもの思いや願い、問いを基に資料化し、道徳の時間を創る。  
自分の考えや価値観を友達と交流し、子ども同士の学び合いを通して自分の考えを深めていく共に考える学習過程を設定するなど、子どもの主体的な学びを重視した学習過程を確立する。  
発問の内容、質を考えて精選し、ワンパターンの発問からの脱却とその構成を考える。  
効果的な道徳教育を推進するために、機能する職員組織作りと小さな投げかけを繰り返し行っていくことを中心に、保護者との連携を図る。

## 2 基本的な考え方

### (1) 子ども主体の道徳学習

子ども主体の道徳学習とは、教師主導の発問 - 答えるの繰り返しによる授業スタイルからの脱却を図り、**子どもが自ら考え、子どもが活躍する子どもが主役の授業**のことである。子ども主体の道徳学習の学びの具体的な姿を次の5点としてとらえた。

授業の中心課題に自ら気付き、他人事ではなく、自分のこととして考える子  
自分と道徳的価値とのずれや壁に気づき、自分の課題としてとらえ、考える子  
友達と意欲的に意見交流し、自分の考え方、価値観を広げたり、高めたり、深めたりする子。  
道徳的価値を自分の言葉で語るができる子  
行動化、態度化への心情を自分の言葉で宣言出来る子

また、「1時間の授業が子どもが主役の授業であり得たか」のバロメーターとして、次の自己評価の5観点（1～4の4段階で評価）を定めた。

授業に進んで取り組めた	自分なりに考えることが出来た
新しい考えや感じ方に気づいた	自分の生き方、これからの生活の参考になった
自分の課題（各自で設定）を解決することが出来た	

子どもにとって充実感があり、楽しく、ためになる授業を目指し、次の3点を数値目標として設定し、教師自らが授業を振り返るようにした。

今日の学習の充実度（0から100%で子どもが自己評価 80%以上8割を目指す）
今日の学習の楽しさ度      今日の学習のためになった度

子ども主体の道徳学習にするために、教師は支援者として学習を支援し、授業をコーディネートする。そして、子どもの学びの過程として、次の四つを考えた。

気付く・・・学習の中心課題に気付く。これまでの自分の見方や考え方、道徳的価値と自分の見方や考え方や価値観、生活行動とのずれに気付く。  
 広げる・・・自分の考えを他の人との交流により、広げる。  
 深める・・・考えたことをもとに自分の考えをさらに深める。  
 つなげる・・・考えたことを自分の将来、具体的な生活場面につなげていこうとする意欲、方向性をもつ。

**キーワード：自ら気づき、考え、いきいき、充実感、満足感、ためになった、行動化への意欲**

主体的とは他から導かれずに、自分の考えに基づいて自分から行動したり他に働きかけることである。主体的な思考や活動を大切に指導するということは、子どもの学習意欲、「知りたい」「考えてみたい」「もっと考えよう」という子どもの内発的な思いを大切にして学習過程を組み立てることである。子どもの学習意欲こそが主体的な思考を生み、道徳的価値の追求場面で広がりや深まりをもった思考が可能になると考えた。本研究では、教師が発問し子どもが答え、道徳的価値に導いていくという指導過程から脱却し、子ども自らが考え、共に学び合い、その中から道徳的価値に気付いていく学びの過程を構想した。

また、道徳の時間の学習は、子どもの未来につながる学習であり、生徒一人一人の明日への意欲を生み出し、生きることへの素晴らしさを感じ得る時間であり、子どもに夢と希望を抱かせ、自分の可能性を学ばせる時間と、教師側からも、明るく楽しい時間のイメージでとらえる。

**(2) 主体的な学びと資料・課題との関わり～問題を課題にする過程**

子どもの学びを子どもが主役の主体的な学びにするためには、「考えてみたいな(関心)」「考えてみよう(意欲)」「考えなくては(切実感)」という**学びの必然性**を感じる事が大切であり、そこから学習への意欲が生まれると考える。

では、子どもが**学びの必然性**を感じる時はどんなときか。子どもは学校生活を営むと共に、社会生活を営んでおり、自分自身を見つめながら、学校生活を見、社会を見ながら、自分の生き方を模索している。その中で子どもは、自分の価値観とのずれを多かれ少なかれ感じているに違いない。そこに問題が生まれる。その問題を子どもが解決しなければならない問題として認識したとき、子どもは見通しをもって手だてを考え、解決への方向性を見いだす。これが**学びの必然性**であり、問題は課題化される。そこに主体的な学びが成立する。子どもが資料を探したり、課題を創ったり、この過程にこだわった実践が、My道徳である。

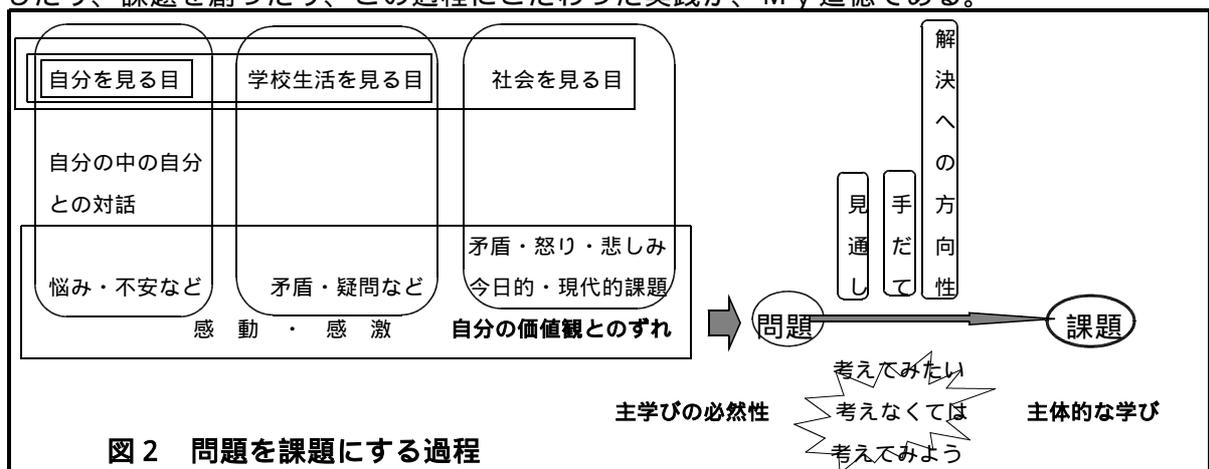


図2 問題を課題にする過程

**(2) ステージ道徳**

ステージ道徳とは、子どもの学びのステージのねらいと密接な関係をもった内容項目を取り上げて指導する道徳の時間(複数価値で一つの単元を構成する単元型道徳)である。

子どもの学校生活をもとに、1年間を8つの学習期（学びのステージ）に分ける。それぞれの学習期には、様々なねらいをおく。学校に活力が生まれるのは、学校全体が一つの方向を目指し、大きなうねりができたときである。例えば、学校全体がある行事を目指して一色に染まったとき、その活気は一人一人の生徒の行動によって支えられることになる。そして、その行動・行為を支えるのは一人一人の心であり、その心を育てるのが道徳教育である。

これまでも行事との関連を図った指導はしてきた。しかし、道徳の時間が事前、事後と単発な関連で行われ、連続したものではなく、子どもの意識を行動・行為へ反映させていこうとすると、やや弱い所があった。それを、生徒の意識を連続させ、より密接なつながりをもたせて行動・行為まで意識させ、より効果的に指導しようとするのが、ステージ道徳の考え方である。

### （3）My道徳

My道徳とは、**子どもの思いや願い、問いをもとに子どもが主体となって教師と共に創る道徳の時間**のことである。

子ども自身が自分の生活の中から、最近気になっていること、疑問に思っていること、感動したことなどを取り上げ、道徳的価値との関連を考え、生徒自身の言葉で問いとして提案していく生徒発、生徒主体の「提案型」の道徳である。3年生では、2学期のステージ5（自分を見つめ、自己を向上させるステージ）に位置づける。また、My道徳は発達段階と学習習慣の定着度を考慮し、1年生4時間、2年生6時間、3年生8時間を位置づける。

3年生のステージ5「My道徳」は2学期後半である。折しも、3年生のこの時期は、1学期の修学旅行、球技大会、最後の中体連夏季大会、2学期のメイン行事である文化祭（藤樹祭）と、行事を一通り終え、三者面談を間近に控え、自分自身を見つめ進路にまっしぐらに向かおうとしている時期である。その時期に真っ正面から自分自身と向き合い、自己を向上させるステージを設定することは、大変意義のあることだと考える。自分自身と対話することで、自分自身の内面的な成長が期待できるばかりでなく、それぞれの考えを交流し合うことで、これから進路の開拓に向かうクラスのまとまり感を向上させることができると考えた。

## 3 研究の内容

### （1）学びのステージ

以下の手順で、学びのステージを設定する。

学校行事、生活目標、学年目標を考慮し、1年間を8つの学習期に分ける。

どの学年にも「自分を見つめ、自己を向上させるステージ～自分と対話し、今考えていることを友だちと交流し合おう」のステージを設定する。このステージを「My道徳」

月	4	5	6	7	9	10	のステージとする。
ステージ No	1	2	3		4		
教育目標	<b>自主・挑戦・共生</b>						
学期	1学期 人間関係づくり			2学期			
ステージ ～テーマ	感動ある出会いのステージ ～新しい友、先生と仲良くなる。	わくわく・発見、感動の修学旅行を創り上げるステージ ～思い出に残る修学旅行を自分たちの手で創り上げよう	はつらつ・自立と挑戦のステージ ～学びのスタイルを確立し、球技大会を盛り上げ、最後の部活動に完全燃焼しよう。	きらめき・東中文化を創造し、集団を高めるステージ～声と心のハーモニーを奏で、感動ある藤樹祭を創り上げよう。			1年生では妙高自然教室（3学期）、2年生では、チャレンジ・ウィーク（2学期）を核にした学びのステージを考える。
学校行事	入学式・生徒会オリエンテーション	修学旅行	球技大会 中体連夏季大会	オープンスクール・藤樹祭(合唱・車いす贈呈)			

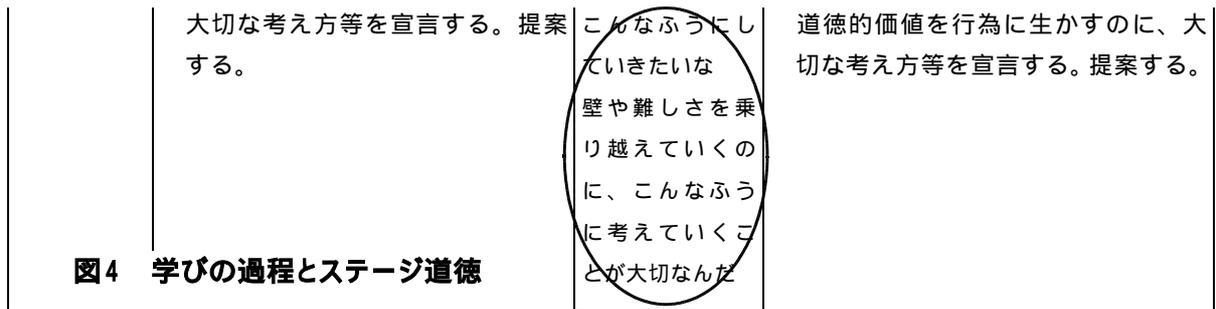
11	12	1	2	3
5	6	7	8	
<b>自主・挑戦・共生</b>				
学習・文化創造、集団づくり		3学期 まとめ・未来志向		
自分を見つめ、自己を向上させるステージ～自分と対話し、今考えていることを友だちと交流し合おう。	真剣に学習に打ち込むステージ～自分を見つめ、進路開拓に向かい、学習を充実させよう。	新たな志の下に、生き方を考えるステージ ～鉄の意志をもって自らの進路の扉を力強く開けよう。	成長を確かめ、社会・未来に立ち向かうステージ～夢・希望・感謝・旅立ち 有終の美を飾り、胸を張って卒業しよう。	
三者面談	補充学習	書初大会 私立高入試	公立高入試・3年生を送る会・卒業式	

図3 8つの学びのステージ

(2) 4つの学びの過程とステージ道徳

子ども主体の道徳学習にするためには、道徳の学習の時間が単なる道徳的価値の知的理解にとどまらないよう、考える - 交流する - 整理する - 再び考える - 発表する・決定する・宣言する などの子どもの主体的な活動を大切にしていく。

学びの過程	ス テ ー ジ 道 徳		
	行事等に関連した道徳		My道徳
<b>気付く</b>  <b>広げる</b>   <b>深める</b>  <b>つなげる</b>	学習のねらいや学習課題について知り、これまでの自分の見方や考え方に気付く。  よりよい価値を追求する。友だちと意見や価値観を交流し、新しい考えに気付いたり、自分の考えを掘り下げたりする。考えたことをもとにさらに新しい考えに気付いたり、自分の考えを掘り下げたりする。 壁や難しさを乗り越えていくための解決のヒント、糸口をつかむ。  自分の考えや感じ方をもう一度見つめ直し、新たな価値を見いだす。  <b>生活化・未来志向</b>  具体的行為への方向性をもつ。道徳的価値を行為に生かすのに、	<b>気付く</b> <b>考える</b> こういうところが難しいんだよな <b>交流する</b> 子ども同士の磨き合い・練り合い こういう考え方もあったんだ こんなふうにも考えられる。 <b>拡散思考</b> <b>整理する</b> <b>収束思考</b> こんなふうには考えていけば・・・ こう考えていくことが大事なんだ。 <b>発表する</b> <b>提案・宣言</b>	社会事象等から道徳的価値に気付き、自分とのかかわりを受け止める。～自分の考え方や価値観、生活行動とのずれ・壁に気付く。 <b>課題設定</b> こんなことを考えてみたい  課題解決または壁や難しさを乗り越えるための解決へのヒント、糸口をつかむ。 自分の考えや感じ方をもう一度見つめ直し、新たな価値を見いだす。  学んだことを生かせるような生活場面・具体的行為を志向する。

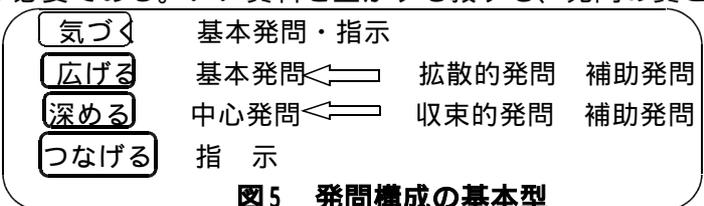


一般のステージ道徳では、教師は、発展学習としてのMy道徳を意識しながら学習をデザインする。子ども主体の道徳学習を実現するために、「問題は与えるものではなく子どもがみつけだすもの」という考え方にに基づき、授業の中心課題を最初から提示せずに、子どもに気づかせるなどして、主体的な思考を支援する。また、他人事ではなく自分事で考える主体的な考える活動にするために、主人公密着型の発問からの脱却を図り、自分主体型の発問で授業を構成するなどの工夫をしていく。さらに、考える - 交流する - 整理する - 発表するの学習活動を通して、子どもを鍛えていく。特に、考える場面では、とことん考えるよう授業後の追支援も行っていく。また、交流 - 整理 - 発表の場面では、多様な学習課程を工夫し、鍛えていく。

### (3) 子どもの主体性を生かす発問

子どもの主体的な思考を促し、子どもの思考を広げ、深め、考えを再構成させ、行為まで志向させるようにするには、発問の工夫が必要である。いい資料を生かすも殺すも、発問の質とその構成にかかっていると考える。

ねらいに迫っていくために子どもの思考を促す基本発問、授業の山場で多様な価値観を引き出したり、多様な価値観を整理したりする場面での中心発問、つまり勝負どころでの発問、さらに子どもの発言や思考を整理したり、深めるための問い直しや方向づけるための問い直しの発問である補助発問を効果的に構成していく。



また、子どもの拡散思考を促し、多様な価値観を引き出し、広げる段階では、拡散的発問を、収束思考を促し、広がった価値観や考えを絞って整理し自己の思考を深める段階では、収束的発問を位置づける。

これらの発問を、次の5点に留意して構成した。

- 理由・判断を問う「なぜ」型の発問を1つに絞り、指示を多くする。
  - 「なぜ」型の発問（なぜか、どんなことか、どこか、何か等）は、理由・判断が求められるので、高度な思考が要求される。これを重ねると、時間が足らなくなったり、子どもの負担になるので意欲がそがれる。勝負所で位置づける！
  - 同じ「何」を問うにも工夫する。
  - ワンパターンの発問構成にならないように工夫する。「何か」が連続すると、子どもは圧迫感を感じる。同じ内容でも問いかけ次第で、指示になる。
  - (例) 大切な心は何か？ 大切な心をあげてみよう。
- |              |           |   |
|--------------|-----------|---|
| (先生に)考えさせられる | (子どもが)考える | へ |
|--------------|-----------|---|
- 子どもの思考がつながっていくように発問を構成する。
- せっかく深まりつつある子どもの思考を妨げないように。また、考えたことをもとにさらに考えていくような発問も考慮する。
- 拡散思考から収束思考へ向かうように組み立てる。

様々な価値観、考えが出され、広がったままでは、どれが高い価値をもった考えなの  
分からない。収束させ、高い価値を明らかにする。

失敗談を想起させる発問は避ける。

失敗談を振り返る暗い時間や妙に説教じみた時間ではなく、未来を志向する明るい時  
間になるよう、失敗体験を振り返るマイナス思考になるような発問は基本的にしない  
プラス思考を心がける。

(例) 自分に足りないところはないか? あらためて～していくのに大切にしたいこ  
いことをまとめてみよう。

#### (4) 本研究と保護者との連携

心の教育を進めるに当たり、保護者との連携は必要不可欠と考え、まず、保護者を道徳教育  
の舞台に乗せ、道徳教育に興味・関心をもってもらうために、子どもと保護者で一緒に取り組  
む心のノートを使ったアンケートを実施し、保護者の思い、願いを把握した。また、授業では、  
子どもに多様な考えに触れさせたり、子どもがもった課題を解決するためのヒントになるよう、  
保護者の考えや体験を子どもが考える過程に取り込んだ。

大がかりなことではなく、気軽に、手軽に、簡単に、そして続けられるように、日頃から情  
報発信をこまめに行うことで、保護者は学校の道徳の時間に興味関心をもってくれると考えた。

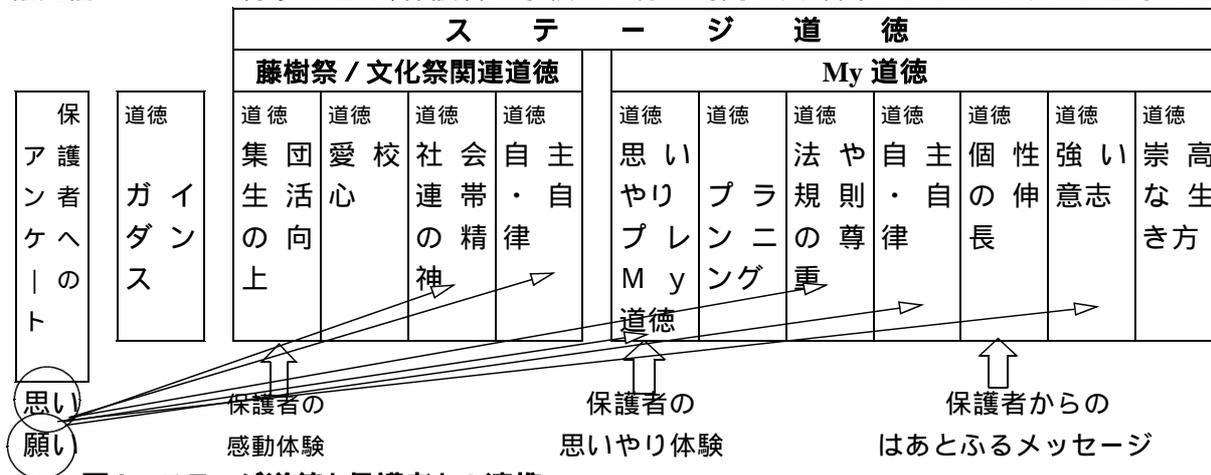


図6 ステージ道徳と保護者との連携

#### 授業実践

##### 1 アンケートの実施～保護者の関心を喚起し、思い・願いをキャッチする

###### 資料6 アンケートの項目(抜粋)

生徒が大切にしている鍵		
1	理解し合い高め合える友達に出会う鍵	2 - (3) 17人
2	感謝と思いやりの心をもつ鍵	2 - (2) 6人
3	目標や希望に向かい勇気をもって生き抜く鍵	1 - (2) 5人
生徒が不安や心配を感じている鍵		
1	目標や希望に向かい勇気をもって生き抜く鍵	1 - (2) 10人
2	何ごと自分で判断し決定し実行し責任をもつ鍵	1 - (3) 7人
3	理解し合い高め合える友達に出会う鍵	2 - (3) 6人
生徒がみんなで一緒に考えてみたい鍵		
1	理解し合い高め合える友達に出会う鍵	2 - (3) 9人
2	目標や希望に向かい勇気をもって生き抜く鍵	1 - (2) 6人
3	役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める鍵	4 - (1) 6人

「道徳」の時間についてのアンケート実施(9月9日)に際し、「心のノート」を家庭に持ち帰らせ、生徒と一緒に考え、質問に答えてもらうようにした。32人に協力を依頼し、31家庭から協力を得られた。協力を得られなかった1名は親に見せていない男子生徒であり、アンケートを持ち帰った生徒は100%の協力率だった。

(男子父親からいただいた感想)

子どもと学校で教えている道徳の話

<b>保護者が学校で特に力を入れてほしい鍵</b>	
1 何事も自分で判断し決定し実行し責任をもつ鍵	1 - ( 3 ) 11人
2 自然や美を愛し人間の力を越えたものへの畏敬の念を深める鍵	3 - ( 1 ) 8人
3 かけがえのない生命を尊重する鍵	3 - ( 2 ) 7人
4 目標や希望に向かい勇気をもって生き抜く鍵	1 - ( 2 ) 6人
<b>保護者が子どもと一緒に考えたい鍵</b>	
1 感謝と思いやりの心をもつ鍵	2 - ( 2 ) 9人
2 21 地域社会の一員として郷土を愛しその発展に寄与する鍵	4 - ( 8 ) 7人
3 理解し合い高め合える友達に出会う鍵	2 - ( 3 ) 5人
3 かけがえのない生命を尊重する鍵	3 - ( 2 ) 5人
3 法やきまりの意義を理解し社会の秩序と規律を高める鍵	4 - ( 2 ) 5人
3 よりよい社会の実現のために公徳心・社会連帯の自覚を高める鍵	4 - ( 3 ) 5人

したことはなかった。初めてこのアンケート用紙に答えを書くことに対し、子どもと多少なりとも 23 の鍵があるという道徳教育を話し合えたことは大変有意義だと思った。

## 2 鍛える～My道徳に向けて布石を打つ

My道徳は、道徳学習の発展学習としての性格をもつ。よって、一朝一夕で授業が成立するわけではなく日頃から子どもを鍛えておくことが重要なポイントとなる。具体的には、朝の会や帰りの会、My道徳の設定されているステージに至るまでの道徳の時間などを使って、様々な活動を経験させておく。(図7・8参照)

- 「集める」**  
資料を集める。
- 「考える」**  
自分の考えをもつ。
- 「まとめる」**  
自分の考えを整理して文章にまとめる。
- 「発表する」**  
自分の考えを音声言語にして人に伝える。  
表現力・発表力を養うために、子どもが発表することの楽しさや意見を聞いてもらえることの楽しさを味わわせる。

- 「考える」**  
子どもが授業の中心課題に気付く。  
子どもが体験したことをもとに考える。  
考えたことをもとに、さらに考える。
- 「交流する」**  
お互いの考えを交流させる。
- 「情報を整理する」**  
交流した情報を整理する。
- 「発表する」**  
考えたことをまとめ、発表する。

**図7 朝の会で鍛える(スピーチを通じて)**

**図8 授業で鍛える**

本研究では、授業に先駆けて、「自分の思いや考えを伝えられる人間を目指して～自分を取り巻く社会や世界の出来事、人の生き様に目を向けてみよう」をテーマに、「新聞ノート」を作り、朝の会でスピーチとして実施した。

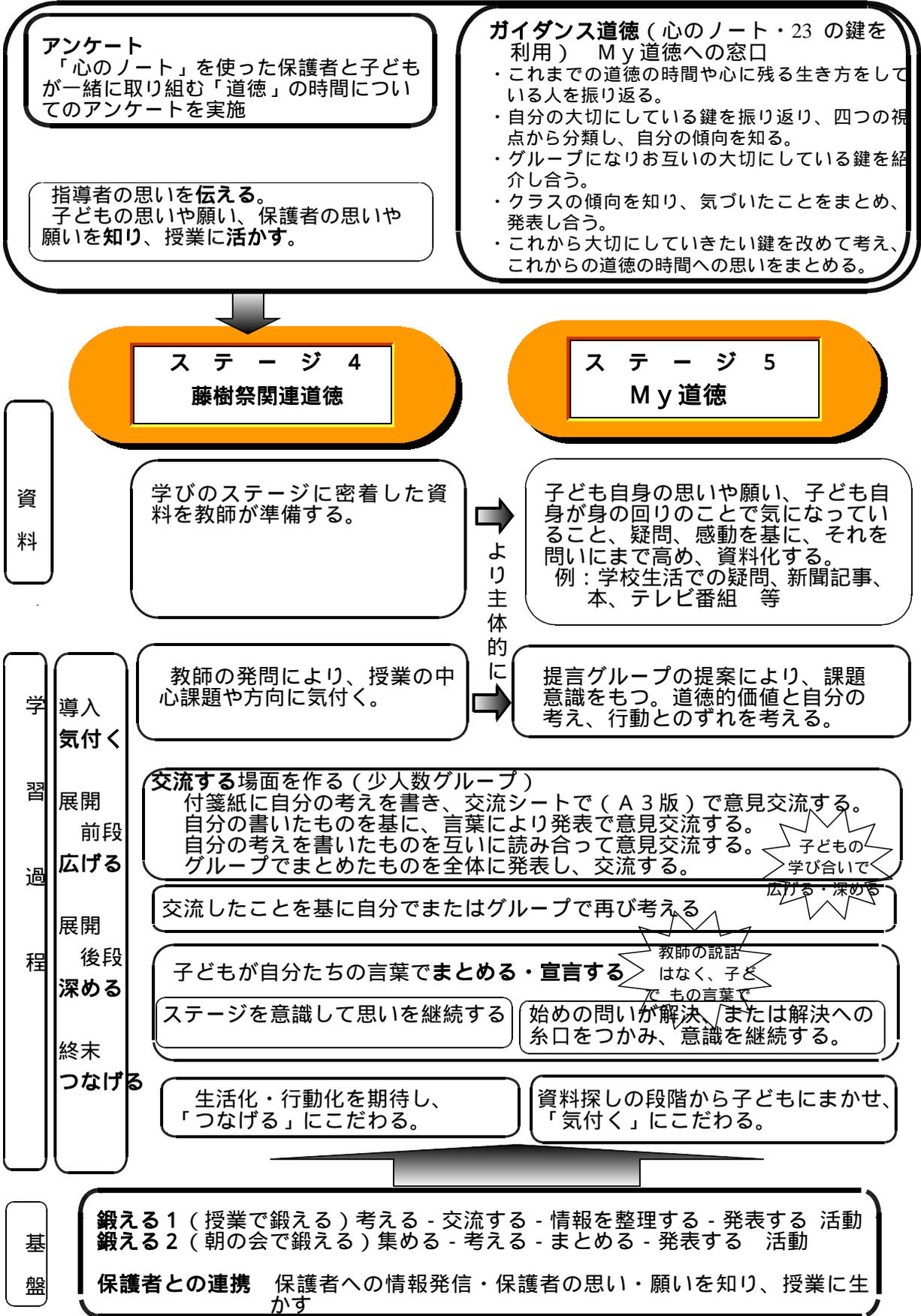
スピーチの題材は、「自分の考え方や感じ方、自分の生き方やあり方にヒントを与えてくれたニュースやテレビ番組、本、実在する人物などを友だちに紹介しよう。」と、新聞やドラマ、ドキュメンタリー番組、スペシャル番組、自分の読んだ本、出会った人物などから取材した。

My道徳(ステージ5)の前のステージ4では、次のような活動を取り入れ、「考える力」、「考えを伝える(発表する)力」、「情報を整理する力」を身に付けさせようとした。

具体的に導入した手だて、工夫は、以下の通りである。

- ・付箋紙に自分の考えをまとめ、書いたもの(考え、情報)を分類、整理する。
- ・グループで意見・考えたこと、気付いたことを交流する。(多様な価値観にふれる)
- ・グループで話し合い、新しい考えをまとめる。(自分たちの考えを広げる)
- ・付箋紙に書かれたみんなの意見、考えを整理する。(友だちの意見・考えを知る)
- ・自分の体験を振り返る
- ・考えたことを基に四コマ(紙芝居)でまとめる。
- ・生徒作文、保護者感想から重要かつ必要な情報を探す
- ・保護者に協力してもらう(自分の体験を提供してもらう)

図8 授業実践に関わる全体構想



**授業1 ガイダンス道徳** 大切にしたい鍵 

友達が大切にしている心の鍵について知り、自分と比べてみよう。  
自分がこれから大切にしていきたい鍵を見つけよう。

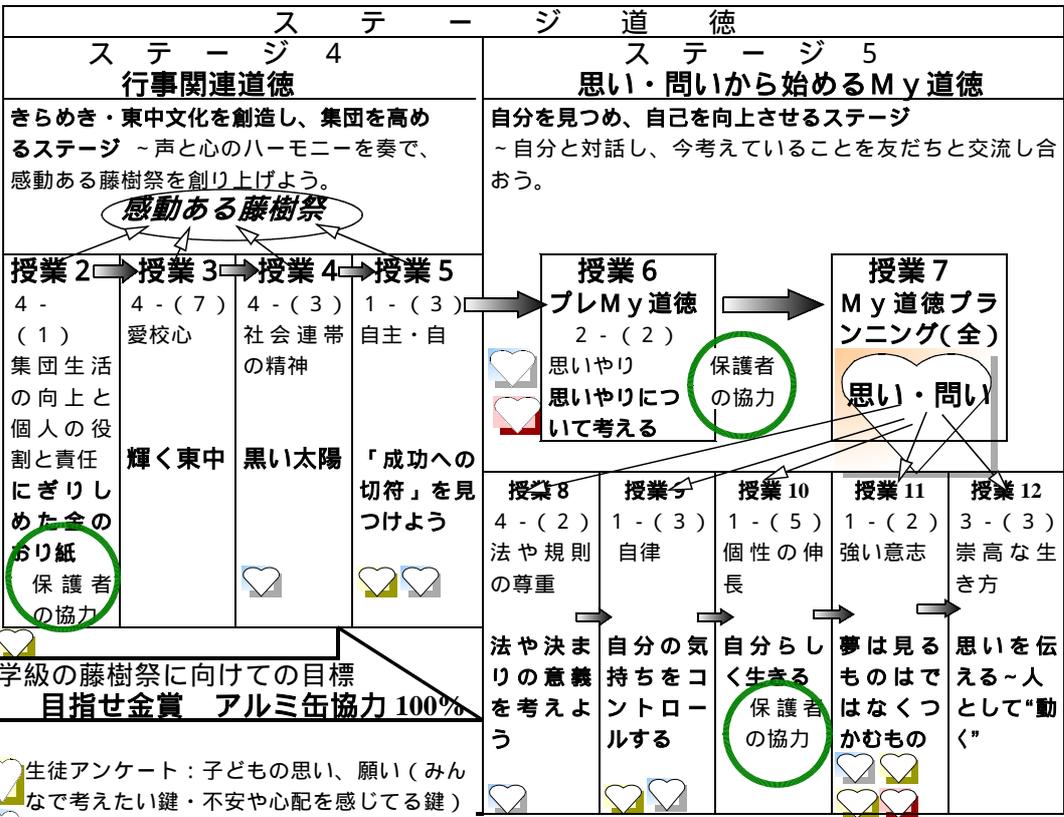


図9 授業構想図

3 授業実践

(1) ガイダンス道徳

「ガイダンス道徳」とは My道徳の時間の学習の窓口となる時間 である。2学期最初の道徳の時間に位置づけ、1学期までの道徳の時間や自分自身を振り返りながら、道徳の時間の意味や性格についてももう一度考えたり、気付いたりする。その中で、子どもたちにとって、道徳の時間が自己理解を深め、自己実現に向けてよりよい生き方、在り方を模索するための効果的な学習の時間になるよう指導援助する。

ガイダンス道徳では、次の四つの感覚（「三つの分かる」と「かわる」という感覚）を実感させる。これらを実感することが主体的な学びを拓いていく道徳学習につながるものとする。

- A 自分が分かる（自分の考え方、価値観に気付く）
- B 他者が分かる（自分以外の人の考え方、価値観が分かる）
- C 道徳的価値が分かる（人間として生きていくうえで大切な価値が分かる）
- D 自分が変わる（資料との出会いや他者との交流により自分の価値が広がる、深まる）

**授業1 ガイダンス道徳**

**主題名** 心の鍵 **資料名** 心のノート

**ねらい** 心のノートの23の鍵を使い、自他の大切にしている心の鍵を知る。  
自分がこれから大切にしていきたい鍵を改めて考える。

**主体的な活動にするための工夫**  
自分が大切にしている心の鍵を付箋紙に書き、自分で四つの視点から分類してみて自分の傾向について気付く。



**抽出見 A**：授業をしていてとても楽しかった。自分をよく見つめて、自分の大切にしていること、自分自身の足りないところ……。今日は自分自身が少しわかったような気がした。それから友達の大切にしていることなども聞けてとても楽しかった。みんなで意見を言い合い、みんなそれぞれの意見を持ち合いながら、みんなで考えるととてもいい授業だった。次の授業ではもっといろいろなことをして、もっとクラスのみんなの意見を聞けて、自分自身をもっと理解できたらいいと思う。

【ガイダンス道德の各学習過程における A 子の考え】

気付く	広げる	深める	つなげる
教師：自分が出会った人の生き方で印象に残っていることはないか。 A 子：おーなり由子さんの言葉・モンゴメリ 教師：自分が大切にしている心の鍵は？ A 子：理想をもって・友という生涯の...自然の素晴らしさを... 4つの視点で分類	<b>グループで紹介し合う</b> <b>クラス全体の傾向を知る</b> (上位3つの鍵) 1 理解し高め合える友達に出会う鍵 2 感謝と思いやりの心をもつ鍵 3 目標や希望に向かい勇気をもって生き抜く鍵	教師：グループトークを終えて考えたことは？ A 子：人によってやはり考え方が違うことがわかった。私は友達を大切にしたいと思っている。殆どの人が8の「友という生涯の宝物を」を選んでいて嬉しかった。みんなで友達を大切にしていけたら、とてもいいと思った。	教師：これから大切にしていきたい鍵をあらためて考えてみよう。 A 子：感謝と思いやりの心をもつ鍵(人間は思いやりの心が大切だと思うそれに友達が何かしてくれたら、素直に「ありがとう」が言える人になりたい。)

《ガイダンス授業の考察》

授業の最後に書いた上記の文章に「とても」が3回、「もっと」という表現が3回出てくることから、満足感、充実感の高さと共に、次の道德の時間への期待感が感じられる。他の生徒にも「自分のことがわかった」「友だちの考えがわかった」「自分に足りないところに気付いた」「もっと友達のこと自分自身も知りたい」などの記述が見られ、「楽しかった」「ためになった」「次が楽しみ」「面白かった」など、全員が好印象をもった。以上のことから「ガイダンス道德」のねらいは達成されたと考える。

(2) ステージ道德(行事関連道德)

ステージ4のテーマ【きらめき・東中文化を創造し、集団を高めるステージ～声と心のハーモニーを奏で、感動ある藤樹祭を創り上げよう。】に迫るために4時間の藤樹祭関連道德を構想した。はじめの3時間は藤樹祭前に事前道德として、最後の1時間は、事後道德として2学期終盤のステージ6(進路開拓に関連)につなげていこうと考えた。また、授業2は合唱コンクール、授業3は藤樹祭全般、授業4は車いす贈呈式(アルミ缶回収)との関連で設定した。

授業2	授業3	授業4	授業5
<b>主題名</b> One for all (4-(1) 集団生活向上と個人の役割・任) <b>資料名</b> にぎりしめた金のおり紙(平成13年度卒業生作文) <b>ねらい</b> 集団として頑張ることの意義について考え、集団の一員として、すすんで自分の	<b>主題名</b> 東中生としての誇りを胸に (4-(7) 愛校心) <b>資料名</b> 輝く東中(平成13年度藤樹祭・オープンスクール来校者感想) <b>ねらい</b> 保護者や地域の方々の東中生への思いを知り、東中生の一員としての誇りをもち、自分た	<b>主題名</b> エール～哀れみではなく同じ仲間として(4-(3) 社会連帯の精神・共生社会の実現) <b>資料名</b> 黒い太陽と笑顔(『あの日のことをかきました』より) <b>ねらい</b> 思いやるべき他者の存在を知り、同情や哀れみではなく、	<b>主題名</b> 『成功への切符』を見つめよう(1-(3) 自主) <b>資料名</b> 藤樹祭での体験 <b>ねらい</b> 自分で考えて行ったことは明確な答えとなつて返ってくることを知り、物事をやり遂げるには過程が大切であり目標に向かって自分で考え、実行し、責任ある行

役割を遂行しようとする態度を養う。 <b>工夫</b> 卒業生が藤樹祭で得た宝物を読みとり、それをもとに班で「藤樹祭未来劇場（４コマ紙芝居）を作って発表する。	ちの夢や希望を実現せるために出来ることや大切な心を考え、仲間と共に協力し合い、実践しようとする態度を養う。 <b>工夫</b> 保護者感想から東中生のよい所に自ら気付く。意見交流を付箋紙で。	同じ人間として手をさしのべようとする心情を喚起し、共生社会構築への心情を養う。 <b>工夫</b> アフガニスタンの国情と子どもたちの写真の笑顔とのギャップから自ら考えを深める。	動を取ろうとする心情を養う。 <b>工夫</b> 各自の目標達成のための頑張りを基に、目標達成や成功に大切な心を班で考え、目標達成・成功の決め手トップ３として発表。
--	--	--	---

抽出児A：（前略）でも、みんなで協力してする作業はとても楽しかった。やっぱり自分と他の人は意見が違うから、アイデアもたくさん出て、まとめるのは大変だったけど、一つのものができる、とても嬉しかった。今日は協力することは一人でやるよりも大変だけれども喜びは大勢のほうが嬉しいし、心に残るといことが分かった。	抽出児A：今日の授業では東中のよいところがたくさん分かった。みんなで協力をしてその伝統を伸ばしていけたらと思った。一人一人違うイメージをもって、その一つ一つを大切にしていきたいなと思った。これから藤樹祭が始まり、たくさんの方が東中生を見に来てくれる。私たちはもっとたくさんの人に東中の素晴らしいところを見てほしいし、私たちの一生懸命さ、マナーを守るところを見てほしい。  学習の充実度 80 % 行動・実践への意欲充電率 90 %	抽出児A：（前略）私たちは、アフガニスタンの人々に、人はどんなに苦しくても希望をもって一生懸命生きているという思いを感じ、これからの藤樹祭のアルミ缶回収に力を入れて……自分が出来る精一杯の支援をしていきたい。私は、楽しい絵、未来の絵を描くのが好き。アフガニスタンの子どもたちにもそんな絵を書いてほしい。だから絶対平和にしたい。	抽出児A：（前略）私は目標を達成するまでの過程がとても大切なことだと分かったように思う。目標に達成するまでには、本当にいろいろつらい事、大変な事、心配な事、不安な事、そんな事がたくさんあって目標に達成できるのだ。だから目標を達成出来たときの喜びはとても大きいものなのだ。私はこの喜びをたくさん味わいたい。これからたくさん苦勞をして、今の目標を達成できるよう、今日からまた目標に向かって頑張りたい。 学習の充実度 90 % 意欲充電率 100 %
---	--	---	--

【授業5「成功への切符」を見つけよう の学習過程とA子】

気付く	広げる	深める
<p>教師：みんなの個人目標の達成度はどの位だろう？</p> <p>A子：今から勉強をこつこつする＆早くクラスに慣れるよう頑張る 達成度 75 %</p> <p>クラス： 0～25 % 3名 26～50 % 6名 51～75 % 20名 76～99 % 1名 100 % 0名</p> <p>教師：クラスの藤樹祭での目標達成度はどの位だろう？</p> <p>合唱金賞・アルミ缶回収 100 % クラス：75 % 1名 A子：99 % 76～99 % 8名 100 % 21名</p> <p>教師：二つの違いは何なのだろう？目標の達成や物事の成功に大切なことは何だろう。（今日の学習の方向付けをする。）</p>	<p>教師：大変だったことやつらかったことをあげてみよう。</p> <p>A子：JRC 委員としてアルミ缶を頑張った。でも100%になるか心配だった。合唱がなかなか完成せず不安だった。</p> <p>クラス：挙手なしで発表</p> <p>教師：みんなの気持ちとして多かったものは何だろう 板書にサイド線を引く。</p> <p>教師：クラスの壁を乗り越えるために、自分がやったことをあげてみよう。</p> <p>A子：クラスみんなに呼びかけた。朝練習したり、放課後歌ったりして練習をした。大きな声で歌う。</p>	<p>教師：目標達成や成功の決め手となることをまとめてみよう。</p> <p>A子：友だちの努力や励まし。一人の力には限度がある。（協力者が必要）・一人だけ目標を無視できない。</p> <p>↓</p> <p>グループの他の人の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画通りにすること</li> <li>・目標を達成する強い気持ち</li> <li>・毎日の練習</li> </ul> <p>↓</p> <p>グループでまとめた目標達成・成功の決め手 トップ3</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 計画を立て実行する</li> <li>2 継続する</li> <li>3 友だちの頑張りや励まし</li> </ol> <p>↓</p>

**考察 1：抽出児 A から見たステージ道徳（藤樹祭関連道徳）**

JRC 委員として自分がクラスのために頑張ったことを自ら振り返り、主体的な思考がみられる。深める場面では、班員との交流により、自分の思考の軌道修正が図られ、さらに具体的な自分の成功する姿をイメージし、身近にある具体的な切符(できそうなこと)を想起している。

**考察 2：ステージ 4 を振り返った自己評価から見たステージ道徳**

藤樹祭事前道徳の時間が、藤樹祭への意欲を「大いに高めた」としたのは 6 人、「かなり」12 人、「少し」6 人で、高められなかったとしたのは 0。また、[学習のためになった度]も、「大いによりも上」7 人、「大いに」14 人、「かなり」6 人、「少し」5 人で「ためにならなかった」と評価した者は 0。授業 2 に合わせて発行された学級通信(ファイナルラウンド)による呼びかけと連携し、道徳の時間が意欲向上のために有効的に機能したと考えられる。「その気になった」生徒は、この後自主的に行動を起こす。授業の後で女子数名が中心となり、自主的に練習日程を作成し、練習を呼びかけ、腹を割って改善できそうなところを言い合い、急速に意欲を高めていった。アルミ缶回収も藤樹祭目前に「100%協力」を達成し数も一万缶を超えた。合唱も中間発表会での劣勢をはね返し、本番では「金賞」を獲得。アルミ缶回収 100%協力と共に、二つの目標を見事に達成した。下記は、藤樹祭直後の「学級活動」の時間に、生徒が「藤樹祭を終えて」と題して、書いた文章の一部である。

つなげる	
教師：自分にとっての成功をイメージしてみよう。	
A 子：充実していて楽しい高校生活を送る。資格をもって何か働いている。	
教師：自分の身の回りにある「成功行き切符」を見つけて発表し合おう。	
A 子：1日2～4時間勉強、自分の頭にたたき込む。関数が苦手なので、グラフの問題を頑張る。数学は1日1時間。	
学習の充実度	90%
意欲充電率	100%

(前略) 道徳の時間から櫻井先生の授業で、改めて藤樹祭について考えさせられました。果たして藤樹祭は何のためにあるのか、そして何をすべきか、金賞を取るためにはどうするか、アフガニスタンはどんな国だ e t c . . . 。やはり 3 - 1 が藤樹祭でいい思い出が作れたのは櫻井先生の道徳のおかげです。心から感謝いたします。(後略)

**(3) My 道徳 (ステージ 5)**

本研究では、朝の会で取り組んでいるスピーチ「自分の思いや考えを伝えられる人間を目指して～自分の取り巻く社会や世界の出来事、人の生き様に目を向けてみよう」を基に、課題作りをし、7 時間(プレ My 道徳 1 時間、My 道徳プランニング 1 時間を含む)の提言型の道徳を構想した(前掲 P13 図 9 参照)。

**ア 資料探し・課題づくりの観点**

My 道徳では、授業の準備段階を大切にし、教師による適切な支援を行う。子どもが自ら考える方向性を見いだしていけるように、子どもを信じて、子どもにまかせて、待つ姿勢を大切にする。資料を探し、課題づくりを進めるに当たり、次の 3 観点から課題設定の準備をする。

観 点	留 意 点
生徒の興味・関心から設定	選んだ社会事象などを自分の実生活とどう結びつけるか、どう生活のレベルにおろすかがポイント。 自分との対話で生まれてくる悩み、学校生活の中で感じる矛盾や疑問、希望、社会の中で感じる矛盾や疑問など、対象と自分との価値観のずれから生じる問題の中から、 <b>学びの必然性に着目して課題化していく。</b> 授業の流れを子どもに示すためのプレ My 道徳で扱う。
生徒の思い・願いから設定	
保護者の思い・願い	

**イ My 道徳の基本型**

My 道徳の学習過程は、一つの拡散思考と一つの収束思考を促す活動を基本的な柱とし、活動を盛り込みすぎないように精選することが大切である。また、主体的な活動の基になる「考

える」「書く」「発表する」などの力を普段から鍛えておくことが重要である。

**My 道徳は、《課題設定 拡散思考 収束思考 振り返り・課題解決》の思考の流れと《自分 交流 自分》の活動の流れが鍵を握る**

授業6 (プレ My)	授業7 (プランニング)	放課後 (プランニング)	授業8
<p><b>提言者</b> 男2名 女2名  <b>主題名</b> 思いやりについて考える(2-(2)思いやり)  <b>資料名</b> 各自の思いやり体験&amp;保護者の思いやり体験  <b>ねらい</b> 日常生活の中の思いやり行動の難しさに気付き、その上でよりの確な状況を踏まえ相手の立場に立った思いやりある行動を取ろうとする心情を高める。さらに、思いやりを受ける側のあり方にも気付かせる。  <b>工夫</b> 保護者の思いやり体験をアドバイスとして、生かす。</p> <p><b>抽出児 A</b>：思いやりはやっぱりとても難しいと思った。自然に出来るのが一番いい事だと思っけれど、やっぱり人間だから恥ずかしいと思ってしまい、なかなか行動に移せない。そこで勇気がとても必要だということが分かった。(中略) やっぱり思いやりはとても大切で、思いやりをした後とても気持ちがいいし...。思いやりをすることで、一人でも助けられたり、喜んでもらえたら私も幸せなのでいいと思った。  <b>充実度 95%</b></p>	<p><b>主題名</b> My 道徳プランニング  <b>活動内容</b>  <b>STEP 1</b> マイ・プラン作り 自分の考えや意見を提言としてまとめる。  <b>STEP 2</b> 提言の見直し 自分の提言を自分の生活とのつながりできとらえ直す。自分の提言の一部を( )を通じて( )について考えたい)を付箋紙に書き、模造紙に貼る。取り上げる事柄( )が同じ、または、考えようとしている内容(道徳の価値項目)( )が同じのいずれかの観点で、KJ法 を使ってグルーピングをし、提言プロジェクトを編成する。  <b>STEP 3</b> My 道徳の時間の流れを知る。  <b>工夫</b> 自分の提言の一部を自らグルーピングしながら模造紙に貼る。</p> <p></p> <p><b>写真</b> グルーピングの例(12のグループの例に分類した)</p>	<p><b>プチ・ミーティング</b> 1(40~60分)  <b>活動内容</b>  <b>STEP 4</b> グループ・プラン作り1 同じグループのメンバーを集め、「何について考えたいのか」、「関連する23の鍵は何か」、「みんなに考えてほしいこと・一緒に考えたいこと」を教師と共に考え、「関連する道徳的価値に関する考え」を掘り下げる。  <b>教師</b>：学習展開案作成 子どもの思い、問いを基に展開案を作る。  <b>プチ・ミーティング</b> 2(30~40分)  <b>STEP 5</b> グループ・プランづくり2 授業の大まかな流れと資料を確認する。学習形態や提言、意見交流の仕方などアイデアを出し合う。  <b>授業準備</b>(30分) 提案のための資料作成。役割分担をする。</p> <p></p> <p><b>写真</b> プロジェクト3(授業10)「自分らしさを發揮して生きる」の例</p>	<p><b>提言者</b> 男子2名  <b>主題名</b> 法や決まりの意義について考えよう(4-(1)法や規則の尊重)  <b>資料名</b> 新聞記事  <b>ねらい</b> 罰則付路上禁煙条例を通じて、法や決まりの意義とマナーとモラル、自己規制について考える。  <b>工夫</b> 賛成・反省の立場に分かれ、ディベート的に討論する。途中で役割演技を入れ、行政、商店街の人、喫煙者、吸わない人の4つの立場でインタビューする。身の回りで規則について考えたこととして「校則改定」への取組を想起させる。</p> <p><b>抽出児 A</b>：法や決まりというもの...全員の人のためのものだ。もっとよくしよう!そう思って作っているのだと思う。だからきちんと決まりを守っていききたい。法や決まりはみんながきちんと守っていれば出来ないということも分かった。だからみんなできちんと守っていくことがとても大切だと思った。どんどん決まりが出来ればとても苦しくなっていく。これからは決まりを守り、法や決まり事をなくしていけるように、みんなで協力していくべきだと思う。  <b>充実度 90%</b></p>
<p><b>授業9</b>  <b>提言者</b> 男1名 女2名  <b>主題名</b> 自分の気持ちをコントロールす(1-(3)自主・自律)  <b>資料名</b> 新聞記事(5つの記事)  <b>ねらい</b> 5つの新聞記事に見られる自分の欲求を抑えることが出来ずに、不義、不正を働いてしまった人の姿を</p>	<p><b>授業10</b>  <b>提言者</b> 女子4名  <b>主題名</b> 自分らしさを發揮して生きる(1-(5)個性の伸長)  <b>資料名</b> アンケート結果 新聞記事(ノーベル化学賞 田中耕一さん、本校出身プロ野球選手 飯島一彦選手)保護者はあつふるメッセージ  <b>ねらい</b> ファッションや髪</p>	<p><b>授業11</b>  <b>提言者</b> 男3名 女3名  <b>主題名</b> 夢は見るものではなくつかむもの 1-(2)強い意志  <b>資料名</b> 新聞記事(5つの記事)・本「素顔の勇者達へ(イチロー)」  <b>ねらい</b> 夢や希望、目標に向かって努力を続ける人の姿を通して、夢や希望、目標をもつ</p>	<p><b>授業12</b>  <b>提言者</b> 男子3名  <b>主題名</b> 思いを伝える~同じ人間として“動く”3-(3)崇高な生き方  <b>資料名</b> ビデオ「9・11その時...自ら動いた日本人/アンビリーバブル」  <b>ねらい</b> 国境を越え、同じ人間として自分の思いを伝えるために行動した3人の日本人の姿を通じ</p>

<p>基に、悪を毅然と退ける良心や自分の気持ちをコントロールすることの大切さを考える。</p> <p><b>工夫</b> グループごとにそれぞれの事件の要因を探る。付箋紙を使った意見交流。第三者の失敗体験を資料として扱っているので、子どもの思考をプラス方向にもっていけるように発問構成する。</p>	<p>型など、人マネをする傾向にある若者に疑問をもった生徒の主張を基に、自分のよさを見つけ、自分らしさを発揮して生きることについて考える。</p> <p><b>工夫</b> グループで考える。提言について思うことをあらかじめまとめておきスタートを揃える。付箋紙で意見交流し、KJ法でまとめる。保護者からのメッセージを生かす。</p>	<p>ことの大切さと共に、夢や希望を実現するために、粘り強く努力しようとする意志と態度を育てる。</p> <p><b>工夫</b> 展開前段でグループごとに違う資料をもとに、3つの観点から付箋紙を使って考える。後段～終末では、夢や希望を実現させるために大切なことを四コマ紙芝居にして発表する。</p>	<p>て、人間の気高さ・素晴らしさに触れ、少しでもそんな生き方に近づけるようになりたいという気持ちを育てる。</p> <p><b>工夫</b> ビデオ視聴の際、視聴の観点を提示。付箋紙を使って意見交流。</p>
---	--	--	---

<p>抽出児A：私のすぐ近くには、いつも欲求がいる。(中略)私は毎日のように欲求と戦っている。そしてその欲求に勝ったとき、目標としていた自分になれるのだ。そして欲求をがまんすると、どんどん私たちは成長していける。私たちはたくさんの欲求をコントロールすることを覚えて、これからどんどん成長していけたらいいなと思った。</p> <p>充実度 100%</p>	<p>抽出児A：自分についてよく見つめることが出来た。友達が私のよいところを見つけて手紙を書いてくれたり、親にも手紙を書いてもらったりして、自分のことが前よりもさらによく分かった。(中略)人のマネは決して悪いことではない。いいところをマネして、これからもっともっと変わっていかれたらいいなと思う。自分らしくあるために常に理想をもって、やりたいことはやりたい。モチベーションに頑張りたい。</p> <p>充実度 100%</p>	<p>抽出児A：夢は自分を向上させるものだとは思う。夢に向かう途中にはたくさんのつらいことがある。私には無理かも知れない……と、時にはあきらめてしまうこともある。でも夢が叶ったとき、すごく嬉しいし、また自分が成長するのにつながるのだ。夢をもつことは素晴らしいことでもあるし、自分が成長できる大切なことなので、これからは夢をもって、その夢に向かって頑張りたいと思う。</p> <p>充実度 100%</p>	<p>抽出児A：…自分の思いを伝えたり、行動することについて深く考えさせられた。行動することはすごく簡単なことと、自分が絶対に!という気持ちをもってないと、途中できっと無理だな~と思う。思いを伝えることは大切で、思いを伝えることによってその人は幸せになったり、助けられたり…と、思いはきっと届くと思った。</p> <p>充実度 100%</p>
---	---	--	--

【授業 10 自分らしさを発揮して生きる の学習過程とA子】

気付く	広げる	深める	つなげる
<p>司会：提言を聞いて考えたことをグループで紹介しよう。</p> <p>A子：私も時々自分のよい所ってどこだろう。自分らしく生きるってどういうことだろうと考える。</p> <p>人マネトップ3を聞く 1 服装(流行の服やルーズな着こなし) 2 髪型 3 言葉遣い・持ち物・何かを決めるとき</p>	<p>司会：なぜ人マネをしようか考えてみよう。</p> <p>A子：目立ちたくない。一人だけ違うことをやっていると仲間はずれにされているような気がする。</p> <p>グループの他の人：友達と話が合わなくなる。みんなから浮いてしまうような感じがする。余り考えずに本能的に。仲間はずれが嫌だから。</p> <p>司会：自分らしさについて考えてみよう。</p> <p>A子：元気。(難しい)</p> <p>親と友達から寄せられたメッセージを読む。</p> <p>提言者から田中耕一さん、教師から飯島選手についての紹介を聞く。</p>	<p>教師：考えてきたことを基に、自分らしさを発揮していくのに大切な考えをまとめよう。</p> <p>A子：理想の自分をいつも考え、自分のやりたいようにやる。</p> <p>グループやクラスの仲間： 自分の信念を貫き通し、目標とする自分になるために徹底的に努力する。 自分の目標に向かって頑張っていくこと。 何事においても自分の考え、意志をもつこと。 友達が書いてくれた自分のよいところを誇りに思って自分自身に自信をもっていくこと。 人のアドバイスを聞きながら、自分の考えをしっかりもつ。</p> <p>放課後のプチ・ミーティングで提言者がみんなと一緒に考えたいこととしてあげたこと ・個性、自分らしさって何? ・自分らしさを人に話せるか? ・人のマネをしてしまうわけ ・その裏側にある心理は? ・自分らしさを発揮して生きるとどんなよいことがあるのか。</p>	

考察 1 抽出児Aから見たMy道徳

My道徳では、A子の学習の充実度がいずれも100%で、ステージ4の藤樹祭関連道徳の充実度90%を超える。また、A子の授業の授業を通して考えたことを見ると、どの価値についても自分のこととして考えており、自分自身のこれからの生き方やあり方にまで考えが及んでい

ることがわかる。思考の深まりと共に、主体的な学習活動が展開されたと言える。

## 考察2 ステージ5を振り返った自己評価から見たMy 道徳

<b>充実した時間だった</b>			
おおいにそうだった	かなりそうだった	ややそうであった	そうではなかった
13人(41.9%)	9人(29.0%)	7人(22.6%)	2人(6.4%)
<b>意欲的に授業に取り組めた</b>			
おおいにそうだった	かなりそうだった	ややそうであった	そうではなかった
4人(12.9%)	17人(54.8%)	10人(32.2%)	0人(0%)
<b>ためになる授業だった</b>			
おおいにそうだった	かなりそうだった	ややそうであった	そうではなかった
20人(64.5%)	5人(16.1%)	6人(19.4%)	0人(0%)

100%の生徒がMy 道徳は「ためになる授業だった」と評価している。「充実した時間」に関しては93.6%が肯定的に評価しており、そうではなかったと答えている2人も、「ためになる時間であったか」という問いには2人も「ややそうであった」としている。

## 4 授業実践全体の考察

ステージ4・藤樹祭関連道徳とステージ5・My 道徳の一連の実践を振り返り、実践前と後で子どもの道徳の時間に対する意識を2つの観点から比較してみると、プラス方向への大きな変容が見られた。

「道徳」の時間のマイナスイメージ	改善された			改善されない
	大いに	かなり	少し	
つまらない。面白くない。眠くなる。	18.8%	40.6%	31.3%	3
何をしたらいいのかわからない	25.0%	31.3%	34.4%	3
堅苦しく、窮屈な時間	5	13	9	5
読み物資料が多く意見は挙手して言い最後に先生がまとめるワンパターンな授業の流れ。	10	14	7	1
	31.3%	43.8%	21.9%	
	3	1	96.9%	3.1

「こんな道徳授業」あったらいいな	改善された			改善されない
	大いに	かなり	少し	
楽しく退屈しないワクワクするような授業	1	12	13	6
発表や話し合いを通して、みんなの考えを聞き、友だちのことが知れる授業	22	6	4	0
いすに座って話を聞いたり、書いたりだけではない授業	7	12	9	4
時間をかけてじっくり考えたり、今話題になっていることについて考える授業	10	14	8	0

### (1) 振り返りシートの自由記述から

#### 個人に関わる記述

ア 自分なりの意見や考えをもてるようになった。(9)(自分の考え方が今までは「同じでいいや」というのから「僕なら」と考えるようになった。) イ 物事に対して全然考えなかったけれどいろいろ考えるようになった。(4) ウ いろいろな考え方が出来るようになった。エ 深く考えたり、追求したり出来るようになった。(9) オ 人の意見を聞いたり目を向けたりしてそれについて考えるようになった。(4) カ 人の気持ちや考えを考えるようになった。他の人を理解しようとするようになった。(3) キ いろいろな人に積極的に話せるようになった。自分の意見を人に言えるようになった。(5) ク 人前で堂々と発表できるようになった。ケ 感想や意見を書いたりするのが長くなった。(2) コ 思ったことを上手に言葉で表現できるようになった。(2) サ 新聞などを読むようになった。世の中のことについて関心をもつようになった。(3) シ 生活の中で一つ一つのことに気をするようになった。ス 少し前向きになった。物事に取り組む姿勢が前より熱心になった。(2) セ 細かいことにも目をとめるようになった。

#### クラス全体に関わる記述

ソ(男子)個人的にもそうだが、1組全員の間人としての在り方が変わったのではないかと考えた。個人としてではなく1つの集団としてはけっこう高いレベルにまで成長したなあと思った。タ(男子)今までは同じような意見しか出てこなかったが、いろいろな意見が出てくるようになった。チ(女子)今までの道徳にない「みんなの意見を聞く」「自分の意見をみんなに発表」が大いに含まれていた。ほとんどの人がこの授業はためになったと思う。みんな頭の中に新たな「考える部屋」が出来たと思う。また一つ成長したのではないかと。みんな他人のことを思いやることもできるようになったのではないかと。

個人では、自分の考えをもつことができるようになり、さらにその幅を広げたり深めていくのが分かる。また、自分以外の人の考えや気持ちに目がいくようになったというのも大きな成長である。中には、クラス全体の成長を実感として感じ取っている子どももいる。

### (2) 抽出児の変容から

道徳の時間についてマイナスイメージ、プラスイメージをもっていた生徒(アンケートは9

月 9 日実施)の変容(最初のイメージ 藤樹祭関連道徳の後で My 道徳の後で)を下に示す。

抽出児 B 男	たいくつで眠くなる。	今まで一人で考えていたけれど、他の人の意見を聞いて、他の人がどう思っているのかや、自分の考えが正しいのかが分かってよかったと思う。いろいろ目標が出来てよかった。	自分以外の意見を聞きそれについて考えるようになった。より一層そのものについて追求できるようになった。道徳は勉強とは違い頭を使わずに出来ると思っていたけど、My 道徳をしてみて道徳もよく考えないといけないと知った。一つのことに対していろいろな考え方があることを知った。そのいろいろな考え方があるからこそ、いい結果が生まれることを知った。My 道徳のおかげでふだん考えない周りのみんなの考え方が分かったことがよかった。My 道徳で学んだ、人の意見を聞いてそれについても考えてみることを忘れずに生かしていきたい。
抽出児 A 子	みんなの意見が聞けておもしろい。人間としての行動を学ぶ時間。答えがないところがおもしろい。	今までこういう授業をしたことがなかったのですごく戸惑いがあった。でも櫻井先生の話やみんなの意見や考えをたくさん聞けてとても楽しかった。みんなで意見を言い合い、いろいろな課題にチャレンジし、たくさん考えをみんなで創り出してきて、とても充実した授業が出来た。	毎回道徳の授業が終わるごとに変わっていったと思う。例えばニュースや新聞にのっている事件にあまり関心がなかった私が、新聞やニュースを見たり事件について考えたり、今までの私だったら絶対にしなかったことだ。最初はみんなどういうふうを書くのだろうとおろおろしていたが、今では人に流されたりしなくなり、自分らしい考えや答えが出てくるようになった。道徳の時間といういつも誰かにまかせっきりでまったく考えない授業だった。しかし今回道徳をやって、こんなに考えた授業はない!というくらい考えた。だから道徳の時間はいろいろなことに気づく時間、考える時間だと思った。みんな考えることは違うけれど、最後にはみんな同じようなことにたどり着くことがわかった。自分の中で思っていることをみんなで話し合うなんて私は考えられなかった。みんな心の中で、いろいろなことを思っている。そしてそのことについて話し合い考えを深めることが出来て本当によかった。もっと考えることを広い範囲でやってみたい。My 道徳で学習したことはたくさんあって、どれも私達が生まれていくうえでとても大切なことだ。その学習した内容をすぐに全部やることは難しいことだから、少しずつやったことを実行できるようにしたいと思う。最初の目標は高校に合格すること!道徳で習った目標をつくること、夢の大切さを意識して頑張りたい。

マイナスイメージをもっていた生徒は、道徳の時間の意義を理解しよりよい生き方を志向するようになった。また、初めからプラスイメージのあった生徒は、すでに自分の実生活の中で学習したことが生かされ行為化されているのがわかる。どちらも成長、変容する姿が見られた。

### (3) 授業中の観察及び学級担任の日常観察から

ガイダンス道徳を終え、ステージ 4 (藤樹祭関連) 道徳の 1 時間目に入った頃、グループで考えるという作業が思うようにはかどらず、予定していた授業の 1.5 倍の時間を要した。しかし、私語が多くなったりうまく話し合いが進まないグループはあっても、授業に参加できない者はいなかった。それぞれ自分のやるべきこと(付箋紙に自分の意見を書いてそれを持ちより意見交換する)が、はっきりしていたのがよかったと思われる。その都度、「考える」と指示しなくても、学習の流れをうまく設定することで、生徒は「考える」という学習習慣を自然と身につけていった。My 道徳に入る頃には、グループで活動することに慣れ、スムーズに活動が出来るようになり、1 時間に収まるようになった。授業中の変化は下記の通りである。

生徒がよく考えるようになった。意見交換がスムーズになり、まとめや発表も手際よくなった。授業中の表情が終始明るかった。協力して作業ができるようになった。こだわりをもってまとめる生徒が現れた。

学級担任からも、「生徒が活動や学習の流れになれ、スムーズになってきた」「とにかくよく考えるようになった」「今まで考えようとしなかった者に考える姿勢が出てきた」「クラスにまとまり感が出てきた」という言葉があった。

### (4) 1 年生での授業実践から

1 年生では、3 年生と共通の実践として、ガイダンス道徳(前掲 12・13 頁)、エール～哀れ

みではなく同じ仲間として（前掲 13・14 頁）、My 道徳プランニング（前掲 16 頁）、My 道徳・夢は見るものではなくつかむもの（前掲 16・17 頁 提案者：男子 5 名 資料・展開は 3 年生と異なる）の他に、下記の実践を行った。

主題名 あいさつの意味を考えよう 2-(1)礼儀 資料名 各自のあいさつ体験 工夫 付箋紙による意見交流。終末で学習したことを基に四コマ紙芝居にまとめる。	主題名 My 道徳「私が変わります」が地球を守る 提案者 男子 4 名 女子 1 名 3-(1)自然愛護 資料名 上毛新聞（生徒持参） 「滅びゆく動物たち」より（教師が準備） 工夫 付箋紙による意見交流。オランウータン、 現地の人、日本人、島の四つの立場から考える。
---	--

1 年生の授業に関する関心は非常に高く、授業の翌日には、生活ノートに道徳の授業の話題が数多く取り上げられた。が、My 道徳の課題作り（プランニングの授業）の際に、3 年生では様々な分野の話題が取り上げられたのに対して、1 年生では当時の社会で話題になっていた問題（拉致問題）に集中する傾向が見られた。これは学習経験の差によるものとも考えられ、日頃から物事を幅広く見る目を養っていくと共に、教師自身も日常生活の中から、My 道徳の話題になりそうなことを幅広く探していきたい。

## まとめと今後の課題

### 1 研究のまとめ

考えることの得意、不得意に関わらず、My 道徳を取り入れたステージ道徳の時間は、**誰もが活躍できる、主役になりうる時間**と言える。クラスには学習力や考え方のレベルなど様々な生徒がいるが、スタートラインは違っても、一人一人にプラスの変容と豊かな生き方への方向性をもたせることが出来るのが、ステージ道徳、My 道徳の醍醐味である。子どもの意識を大きく変え、**子どもが活躍し、充実感、満足度の高い学習**となった要因を次のようにとらえた。

子どもと共に取り組むアンケートをはじめとして、道徳の時間への協力を繰り返し依頼することで、保護者の道徳教育への関心を表出させることが出来、協力を得ることが出来た。

自分の考えや体験を級友と交流することで、自己存在感が生まれ、授業への参加意識が高まった。また、自分と違う考えや体験に触れ合うことで、自分の考えの幅を広げたり、深めたり、自分自身が変わっていくことを実感することが出来た。このことは子どもの主体的な学びを生む大きな要因になった。

アンケート結果をもとに、子どもの思いや願いに着目した内容項目を設定することで、切実感をもった項目設定につながり、子どもの学習意欲を高め、充実感を生んだ。特に藤樹祭関連道徳は自分の生き方や生活に密接に関わり、興味関心が持続し、行動意欲につながった。発問を精選し子どもの思考の流れを妨げないように学習過程を考えたことで、何について考えるのか、どんな活動をするのかがはっきりと分かった。やることははっきりすれば子どもは結構なことをやるものだということが分かった。

道徳の時間及び朝の短学活の時間を使った「鍛える」活動が基盤となり、My 道徳における発展的な学習が可能になった。子どもたちが自ら集めた資料、自分たちの問いから設定した学習課題を基に学習を進めたことにより、学習意欲の高まりと共に深まりが見られた。

### 2 今後の課題

本研究では抽出児を細かに追っていくと確かな変容が見られた。今後は日常指導の中で、いかに個の現状を把握し、その変容と成長を継続して見取っていくかが課題である。さらに、ステージ道徳の考え方は、道徳の時間で完結するものではなく、すべての教育活動を子どもの学びのステージと直結して考えていきたい。また、鍛えていく過程で子どもたちに「とことん考える」姿勢を身に付けさせるためには、補充指導を継続していくことも大切な課題である。そして、より充実した道徳の時間にするためには、やはり教師相互間の連携の仕方を工夫したい。一人の実践が他の人の次の実践にも生かされるような組織のあり方、全てを担任に任せるのではなく、チームで道徳の時間の指導に当たるような組織のあり方等を探っていけたらと思う。